産業人クラブだより ―かけはし―

産業人烈伝

オフィス・コンシェルジェに

庚伸・宮澤敏社長 ㊤

「私たちはオフィスのコンシェルジェを目指します」。庚伸の従業員91人の名刺の裏に、この言葉を記載している。「オフィスに関する困りごとなら全てお任せください」という姿勢を表している。

庚伸は主に中小企業を対象にして複合機やセキュリティーシステム、電話機の販売から基幹系ソフトウエア開発、ホームページ（HP）制作、人材派遣まで手がけている。顧客は約4000社で、東京23区をカバーしている。1990年の設立以来、ドミナント（地域支配）戦略を推し進め、地域密着サービスの提供に努めている。

この戦略には理由がある。機器販売だけではなく、その後のメンテナンスが顧客との長い付き合いの決め手になる。むやみやたらと営業範囲を広げるとメンテナンスがおろそかになり〝売りっぱなし〟になってしまう恐れがある。設立当時、業界全体で売りっぱなしが横行していた。しかし、私はこれに疑問を感じていた。頻繁に顧客のもとに顔を出し、オフィスの困りごとに耳を傾け、できることがあれば解決し、最良のパートナーになりたいと考えていた。

90年代はOA機器業界を取り巻く事業環境が激しく変化した。90年代前半まで販売の決め手は、売り手と買い手との知識や情報の差だった。売り手のほうが製品情報を持っており、顧客の関心を引きつけていた。だが、90年代後半にインターネットが普及すると、この関係が壊れた。買い手もネットで情報を収集しやすくなり、関係を再構築することを余儀なくされた。

ビジネスモデルも変革を求められた。それまでコピー機は文房具店、電話機は通信機器店、パソコンはシステム会社が販売していた。だが、これら全てがネットワーク化されたため、各販売店が専門外の製品にまで手を広げなければならなくなった。これがコーポレート・ステートメント「オフィス・コンシェルジェ」を掲げた背景にある。

この間、オフィス関連事業は堅調に推移している。従業員に対して「仕事の際、物事と自分自身を細かく〝因数分解〟してから臨め」と言っている。私自身を分解すると「旺盛な好奇心」と「負けず嫌い」につきる。これが行動力につながっている。

（全3回）

好奇心と負けず嫌いが行動力の源泉…と宮澤社長

トップインタビュー

機器レンタルで存在感

橋梁・建設 自社製品で差別化

ジロー社長（大阪産業人クラブ）村田二郎氏

大阪産業人クラブのジロー（大阪市西区、06・6541・5496）は、鉄骨構造物や橋梁の建設工事向け機器のレンタル業を主力とする。ボルト締め付け電動工具「シャーレンチ」の取り扱いで事業基盤を築いた。現在は全国13営業拠点を構えており、年商は約10億円。9月に創業50周年の節目を迎える。村田二郎社長に現状や展望などを聞いた。（大阪・広瀬友彦）

◇

―現在の景況感をどう見ていますか。

「安倍晋三政権の経済政策『アベノミクス』効果のほか、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの開催が決まって以降は景気が持ち直してきたように感じている。一方、身を置いている建設・橋梁業界の競争は厳しい。他社との差別化を徹底し、当社にしかない商品の開発に力を入れることが重要だ」

―メーカー機能を強化していますね。

「08年に専門人材を採用し、開発部を設置した。これからも建設・橋梁機器のレンタル業を事業の柱と位置づけるが、差別化するには独自商品の開発が求められる。現場のユーザーの声を聞き、橋梁工事で使う吊りピース除去切断機や建設工事で最適な穴を開けるリーマなどの工具類を設計・開発した。約20種類の自社製品をラインアップしている。特許3件、意匠登録・実用新案20件を取得した。現在、売上高の20%を自社商品が占めている」

―建築物の老朽化に対するインフラ整備事業もビジネスチャンスです。

「橋梁や鉄塔などの補修需要は伸びる。当社も力を入れる。ボルトの差し替え作業でも最適な補修工事ができる機器をそろえて提案する」

―創業50周年を迎えます。改めて思うことは。

「19歳で商売を始めて50年、高炉メーカーが開発した高力ボルトを締め付ける電動工具『シャーレンチ』のレンタルに参入して37年になる。参入当時は西日本地区を任され、瀬戸大橋などの大型橋梁工事を手がけて軌道に乗せた。メンテナンスも含めて必死にノウハウを蓄積した。今はシャーレンチ関連でも知名度が高い」

―次代を見据えた後継者育成は。

「娘婿2人が13年10月、14年1月に相次いで入社した。年齢は39歳と37歳で、これからは2人で社員とともに力を合わせ当社を引っ張ってほしい。2人以外にもハングリー精神がある社員に経営者感覚を身に付けさせたい。現在70人の社員一人ひとりをしっかりと教育する」

むらた・じろう　64年（昭39）村田工具を創業、機械工具の個人営業を始める。67年ジロー商会（現ジロー）設立。奈良県出身、69歳。

小さくても本物

新潟 進展工業 自社製品開発に力

新潟産業人クラブの進展工業（新潟市西区、長谷川豊之社長、025・267・3762）は、上下水道設備、空調設備、環境プラントの施工・点検・保守を手がけている。長谷川弘顧問は「公共事業の減少や景気の波の影響を小さくするため、自社製品の開発に力を入れている」と、オンリーワン製品に胸を張る。

最初に開発したのは1998年発売の床暖房畳「小春日和」。畳の芯材に銅線を縫い込み、安全・省エネを実現した。現在も受注を続けている。二つ目は米どころのメリットを生かして開発し、08年に発売したもみ殻炭オイル吸着材「オイルワイパー＝写真」。工場などのオイル流出事故の際、被害を最小限に抑える。日本消防設備安全センターの推奨認定も受けている。

オイルワイパーを進化させて親水性を持たせた液体吸着材「ロードワイパー」は、交通事故の現場などで漏れた液体を回収し、二次災害を防ぐ。また浄水場などの貯水池に混入した極薄の油膜除去に力を発揮する水面油膜吸着材「オイルリムーバ」は「0.5ﾏｲｸﾛﾒｰﾄﾙ（マイクロは100万分の1）の油膜除去効果を認められ、新潟市内の浄水場5カ所で採用されている」。展示会に出展してアピールしており、自社製品が売上高の1割超を占めるまで成長した。これからも新製品開発の挑戦を続ける。

トピックス

長野 アドイシグロ ビル再生事業展開

長野産業人クラブのアドイシグロ（長野市、石黒ちとせ社長、026・233・2105）は、ビル再生事業を本格化する。老朽化したビルを壊さずにリノベーション（改修）し、〝ビンテージビル〟として新たな価値を加えてよみがえらせる。すでに本社隣に所有する築36年になる共同住宅の3室を改修したが、7月からの1年間でさらに4室を改修する予定。2015年7月以降は自社ビル以外の長野市内のビル再生にも乗り出す方針だ。

長野県は冬季五輪後の経済停滞が響き、全国的にも賃貸空室率が高い。長野市街でも空室のあるビルが目立ち、街の活性化の課題になっている。同社は福岡県を中心に活動するスペースRデザイン（福岡市中央区）と連携し、看板製作で蓄積したデザイン力を生かせて地域に根ざした街づくりにも貢献できる新規事業としてビル再生事業に参入した。

プロジェクトに関連したイベントも開いて情報発信している。共同住宅を見学するツアーや体験型ワークショップなどを開催。3月のトークイベント（写真）には行政関係者ら100人が集まった。

19日に共同ビルの築36年を祝う〝生誕祭〟も開く計画だ。また同社が事務局になっている「長野賃貸オーナー井戸端ミーティング」を通じて地域の活性化に貢献する。

工具1本から受注

名古屋・岐阜 産業人クラブ OSG八名工場見学

名古屋産業人クラブ（内藤明人会長＝リンナイ会長）と岐阜産業人クラブ（遠藤宏治会長＝カイインダストリーズ社長）は5月27日、OSGの八名工場（愛知県新城市）とグローバルテクノロジーセンター（同豊川市）を見学した〈写真〉。会員ら37人が参加した。

八名工場で一行を出迎えた石川則男社長は「創業以来76年間、切削工具をつくり続けてきた。何かで世界一になりたいと思っている」とした上で、「世界中からニーズを集め、真摯（しんし）に対応し、お客さまにかわいがってもらっている。1本でも受注し、どのようなニーズにも対応できるようにしている」と強調した。

続いて石田修八名工場長から「ここは1990年に稼働したタップ専門工場。当社の国内外82工場の中でも世界一の生産量を誇っており、マザー工場になっている。生産設備の85%は自社製品。14年に入ってから受注が急回復し、月産100万本になった」などと説明を受けた。材料出庫、成形から熱処理、研削、後処理、検査まで全工程の製造現場を見学。定温管理され、自然光が差し込む工場内は清潔感にあふれており、見学者は熱心に見入っていた。

一方、グローバルテクノロジーセンターは開発部門と切削試験室を置いており、製品開発の中核を担う。試験室には最新の工作機械が所狭しと設置されていて参加者の目を引いた。敷地内にはホテル並みの宿泊設備を完備したゲストハウスもある。顧客が安心して工具の技術情報を収集できるように配慮されており、顧客との接点を大切にする姿勢が感じられた。

年産能力42万台

埼玉・TDU 産学交流会 富士重矢島工場訪問

埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会（佐藤達雄会長＝アーベルソフト会長）は5月29日、群馬方面への一日工場見学会を開き、富士重工業の群馬製作所矢島工場（写真、太田市）とミツバ新里工場（桐生市）を訪問した。会員企業、大学から21人が参加した。

富士重工業の矢島工場では会社概要の紹介ビデオを観賞後、担当者から「年間42万台の生産能力を有する。約260社の協力会社から2万8000点あまりの部品を仕入れて完成車を組み立てる。国内のほか、海外10カ国以上に輸出している」と説明を受けた。

また工場では世界最大級の5000トンプレスを導入しているブランキング工程、ロボット溶接ラインなどを見学。車体にさまざまな艤装（ぎそう）品を取り付ける複数車種混載ラインでは「ボンネットに貼り付けた紙の指示書とICタグによる指示で、混載各車の艤装品を取り付ける」などと説明を受け、参加者は驚いた様子だった。さらに歴代の「スバル」を展示しているショールームも見学した。

ミツバの新里工場では柳沢正夫担当部長から「ブラシレスモーターで世界トップ10。2輪のスターターモーターでは世界トップシェア」と会社概要について説明を受けた。その後、「QCDの徹底」と「管理の極小化」を基本コンセプトにらなくては」といった声があったほか、工場で働く女性の割合や営業戦略などについて活発な質問があった。小原会長は「正直なところ度肝を抜かれた。本日は本当に勉強させていただいた」と締めくくった。

「モノ消費」から「コト消費」へ

奥井元ハーレー社長講演

東京産業人クラブ

東京産業人クラブ（井上裕之会長＝愛知産業会長）は6月25日、「2014年度定時総会&特別講演会」をホテルグランドパレス（東京都千代田区）で開いた。井上会長は「安倍晋三政権の経済政策『アベノミクス』で景気回復の兆しはあるが、中小企業まで効果が波及していない。追い風を味方につけるように、今こそ東京産業人クラブが一つになってがんばろう」と呼びかけた。13年度事業報告・収支決算報告、14年度事業計画・収支予算案を審議し、了承された。14年度の新事業では会員企業同士の交流を深めるための「会員企業訪問シリーズ」の開催、「若手経営者の会」の発足などを決めた。

特別講演会は元ハーレーダビッドソンジャパン社長で、アンクル・アウル　コンサルティング代表の奥井俊史氏を招き、「『モノ消費』から『コト消費』への転換の実践」をテーマに開いた。奥井氏は「相手はホンダ、ヤマハ、カワサキの巨象で、我々はアリだった。価格差もあり、正攻法では戦えなかった。このため発想を転換した。ハーレーの楽しさやブランドの世界を経験してもらって『ライフスタイルが豊かになる』ことを訴求し、新規顧客を獲得した」と振り返った。

顧客開拓の一環として「販売店などと協力し、全国でイベントを開いた。中でも最もハーレーらしいイベントが『富士ブルースカイヘブン』だ。家族連れも多く、来場者の約6割は潜在顧客だ」と紹介。その上で「モノ自体ではなく、モノを使うことで得られる楽しみといった心理的価値を訴求する〝コト売りマーケティング〟が、中小企業にこそ求められる」と締めくくった。会員の経営者ら約80人が熱心に聴講し、メモをとる姿も多く見られた。懇親パーティーでは寺町彰博副会長（THK社長）が「奥井氏の講演は非常に参考になった。クラブ会員もどのように潜在顧客を囲い込むかを考える習慣を身につけて発展しよう」と乾杯の音頭をとった。和気あいあいとした雰囲気の中、情報交流した。

上 中小企業にこそ〝コト売りマーケティング〟が求められる…と奥井氏
下 懇親会で歓談（右から）寺町副会長、井上会長、佐川八重子桜ゴルフ社長、井水治博日刊工業新聞社社長

三輪精機本社工場を訪問

埼玉ビジネス研究会

埼玉産業人クラブ・埼玉ビジネス研究会（小原敏治会長＝小原歯車工業社長）は6月3日、「じっくり訪問シリーズ第23弾」で、三輪精機本社・本社工場（埼玉県川越市）を訪問した。末永昭社長のあいさつ、時田俊彦常務による会社概要説明の後、工場内を見学（写真）した。会員ら13人が参加した。

本社工場ではマシニングセル、5軸・複合旋盤などがある加工ラインや、各工程間の製品移動をコンベヤーで自動搬送する内製組立ラインなどを見学。参加者から「本当に工場がきれい。自分のところももっとがんばる」などと説明を受け、参加者は驚いた様子だった。

ダイヤ精機の諏訪社長訪問

茨城・ローズウーマン会

茨城産業人クラブ（高橋日出男会長＝協立製作所社長）の女性部会「ローズウーマン会」は6月5日、ダイヤ精機（東京都大田区、諏訪貴子社長）を訪問した（写真）。諏訪社長から2代目社長就任のいきさつ、社内改革手法、経営理念、経営方針、経営目標の組み立て方、人材確保・育成などの幅広い分野について話を聞いた。県内企業の経営者、東京産業人クラブ女性部会の会員らを合わせて計8人が参加した。

工場では1ﾏｲｸﾛﾒｰﾄﾙ（マイクロは100万分の1）を研磨する職人の技に目を見張った。町工場ならではのアットホームな雰囲気、技術力の高さを肌で感じ、参加者から「従業員とのコミュニケーションの大切さを痛感した」「話を聞くことができ、悩みが吹き飛んだ」といった声があった。参加者一同、諏訪社長からパワーをもらって有意義な企業訪問になった。

新入会員

名古屋産業人クラブ
▽川瀬幸久氏　中京社長（名古屋市中川区松の木町1の65、052・361・5531、切削工具の製造販売）

7―8月の予定

【7　月】

◇4日（金）―5日（土）埼玉産業人クラブ・TDU産学交流会「福島方面へ一泊研修会」（林精機製造、産業技術総合研究所福島再生可能エネルギー研究所）

◇8日（火）群馬産業人クラブ「2014年度定時総会&記念講演会『グローバル・ニッチトップ企業論』講師／細谷祐二経済産業省地域政策研究官」（前橋市、前橋商工会議所）

◇8日（火）茨城産業人クラブ「2014年度定時総会&講演会『ベトナムにおける日中韓の比較～ハノイ駐在経験から感じたこと～』講師／西川壮太郎日本貿易振興機構茨城貿易情報センター所長」（茨城県水戸市、三の丸ホテル）

◇9日（水）埼玉産業人クラブ「第8回親睦ゴルフ大会」（埼玉県入間市、武蔵カントリークラブ豊岡コース）

◇10日（木）多摩産業人クラブ「会員交流会『会員企業の工場見学&金属加工・切削、板金加工勉強会』」（東京都羽村市、町田市）

◇10日（木）大分産業人クラブ「大分県産業科学技術センター見学&支援事例紹介」（大分市、大分県産業科学技術センター）

◇16日（水）東京産業人クラブ女性部会「7月例会『野村グループのビジネスと野村信託銀行について』講師／眞保智絵野村信託銀行社長」（東京都千代田区、KKRホテル東京）

◇17日（木）―18日（金）掛川産業人・新潟産業人クラブ共催「新潟県産業1泊研修会&交流会」（ピーアールシー、佐文工業所、諏訪田製作所、スノーピーク、五十嵐邸・結）

◇18日（金）東京産業人クラブ「若手地域間交流会」（東京都台東区、伊豆栄梅川亭）

◇22日（火）埼玉産業人クラブ「清水勇人さいたま市長を囲む懇談会」（さいたま市浦和区、彩懐石うらわ高砂）

◇23日（水）東京産業人クラブ・東京産学交流会「7月定例会『新規客獲得のためのWeb活用セミナー』講師／阿部義広フラットコード社長」（東京都大田区、ハロー貸会議室蒲田）

◇23日（水）埼玉産業人クラブ西部支部「埼玉西部地区ビジネスセミナー&懇親会　『企業人の安全と安心』講師／光真章元警視庁捜査一課長、椎葉究東京電機大学理工学部教授」（川越市、川越プリンスホテル）

◇23日（水）大阪産業人クラブ女性部会「納涼川床交流会」（京都市北区、洛雲荘）

◇24日（木）―26日（土）中国四国産業人・四国産業人クラブ共催「北海道工場見学会&秘湯の旅、懇親ゴルフ大会」（カルビー北海道工場、サッポロビール北海道工場ほか、秘湯「湯元湧駒荘」、旭川国際カントリークラブ）

◇25日（金）埼玉産業人クラブ・NITEC埼玉産学交流会「納涼例会」（埼玉県寄居町、割烹旅館京亭）

◇28日（月）大分産業人クラブ「テクノカフェ大分」（大分市、大分大学）

◇29日（火）埼玉産業人クラブ・埼玉ビジネス研究会「じっくり訪問シリーズ第24弾『島津創業記念館』」（京都市中京区）

◇29日（火）―30日（水）名古屋産業人・岐阜産業人クラブ共催「2014年産業人カップゴルフ大会　前夜祭&大会」（長野県木曽町、御岳ゴルフ&リゾートホテル）

◇30日（水）神奈川産業人クラブ「2014年度第1回勉強会『記者の視点から広報を考える―実践企業広報講座』講師／糸永正行日刊工業新聞社横浜総局長」（横浜市中区、神奈川中小企業センタービル）

◇30日（水）九州・山口産業人クラブ「7月度会員交流会&講演会『長寿経営の秘けつ～百年企業に学ぶ』講師／竹本祐介日刊工業新聞社取締役編集局長」（福岡市博多区、博多エクセルホテル東急）

【8　月】

◇4日（月）埼玉産業人クラブ「東部地区経済講演会in越谷『大森機械のグローバル戦略・人づくり』講師／大森利夫大森機械工業社長、『中核市実現に向けた取り組み』講師／高橋努越谷市長」（埼玉県越谷市、越谷コミュニティーセンター）

◇4日（月）山形産業人クラブ「2014年度定時総会&山形県知事を囲む産官懇談会」（山形市、パレスグランデール）

◇5日（火）東京産業人クラブ・東京産学交流会「8月定例会『腹落ちして本気で行動する組織の創り方』講師／平尾貴治シー・シー・アイ取締役」（東京都大田区、蒲田月村ビル）

◇6日（水）埼玉産業人クラブ「分科会『埼玉県の産業労働政策について』講師／山中融埼玉県産業労働部長」（さいたま市浦和区、日刊工業新聞社さいたま総局会議室）

◇21日（木）埼玉産業人クラブ「『ものづくり企業経営革新in川口』講師／土田浩日本銀行調査統計局調査主幹、奥ノ木信夫川口市長」（埼玉県川口市、川口商工会議所会議室）

◇27日（水）茨城産業人クラブ「行政幹部らとの残暑払い」（茨城県水戸市、中川楼）